

# 博士学位論文 審査結果の要旨

## Abstract of review result

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 博士（後期）課程

Doctoral thesis defense committee

博士学位論文審査委員会

Main examiner

主査 清水郁郎

Examiner

審査委員 志村秀明

Examiner

審査委員 山代悟

Examiner

審査委員 松下希和

Examiner

審査委員 岡崎瑠美

Examiner

審査委員 栗原伸治

氏名 Applicant's Name	SANG Beijia
論文題目 Thesis title	A Study on the Urban Residents' Greening Behaviors and Strategies in Urban Residential Space

### 〔論文審査の要旨〕

論文審査は、対面とオンライン併用で、7月31日午前中に実施された。本研究は、都市住宅空間における住民の緑化行動を分析し、都市の熱環境改善と住環境向上への貢献可能性を検証するものである。東京を中心に北京とニューヨークの事例も参照し、社会属性や住宅条件、緑化政策の認知度合、緑化に対する心理が住民の緑化行動にどう影響するかを分析した。東京の松原・本所・月島という性質の異なる3地域で320件のインタビュー調査を実施し、女性、高齢者、大家族ほど緑化への参加率が高く、庭や戸建て住宅所有者では緑化行動が活発である等の知見を得た。これらの分析結果から、月島で緑のカーテンを設置する社会実験を実施し、温度調整や美観の向上がカーテン設置の動機となる一方で、害虫・日照低下・管理の煩雑さが緑化に踏み出す際の障害となることを指摘し、日本の居住環境に即した最適化手法をバルコニー緑化、コミュニティ連携、情報発信等、6つの戦略として提示した。

最終審査では、いくつかの重要な論点について建設的な議論がなされた。特に、北京およびニューヨークの事例については、居住文化や環境条件が東京とは大きく異なるため、これらの事例を直接的な比較対象とすることの妥当性、またそれらの知見をどのように日本の文化的文脈に適合させて解釈するかという点についての整理が求められた。また、提示された「戦略」の概念についても、それが住民のどのような意思や意図に基づくものであるのかを明確化すべきとの指摘がなされた。「戦略」と「戦術」という概念の違いを明確にし、本研究で主眼とするボトムアップ型のアプローチがどちらを意味するのかについての方法論的整理も必要であるとされた。

さらに、記述上の留意点としては、調査対象地域における温熱環境の初期物理データの明示、日本語で実施されたオリジナルのアンケート票の付録としての添付、ならびに東京の比較的小規模かつ高密度な住宅地における緑化行動の特性をより明確に位置づける必要性が指摘された。

本研究は多くの指摘を受けたが、緑化行動の背景にある住民の心理的・社会的要因をきめ細かく分析し、それらを実証的調査に基づいて体系化した点が高く評価された。また、緑化による都市環境改善の可能性を理論と実践の双方から提示し、政策提言としての実用性を備えている点も見逃せない。学際的アプローチを活かした本研究は、住民主体の緑化行動の促進に資する具体的な手法を提案し、持続可能な都市緑化モデルの構築に寄与しうる意義深い成果であると評価された。以上を総合的に勘案し、審査委員全員一致により、本論文をもって博士学位授与にふさわしいと判断した。